

学校教育自己診断の結果と分析[令和4年 12 月実施分]

【学習指導】

生徒の「授業で力をつけることができている」は 78%、保護者は「各教科指導に満足している」67%「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」61%、教職員は「各教科において、教材の精選・工夫、指導方法改善を行っている」は 88%であった。

生徒の「先生に質問しやすい」76%[68%]「先生は努力を認めてくれる」79%[76%]と上昇していることに加え、保護者の授業参観を再開したばかりであり、その継続とともに教職員の研究授業及び教員勉強会を継続し、さらに生徒・保護者の満足につながる改善を行ってまいりたい。

【進路指導】

生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%、保護者の「進路について適切な指導を行っている」72%、教職員の「進路選択に向けてきめ細かい情報提供をおこなっている」は 88%であった。次年度も、さらなる情報提供、進路相談・懇談の充実に努め、生徒・保護者の進路希望を叶えるよう努めていく。

【生徒指導】

保護者の「生徒指導の方針に共感できる」は 76%であったが、生徒の「先生の指導には納得できる」は 58%[55%]、教職員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は 49%[47%]となった。

いじめへの対応の肯定的評価は生徒 80%[78%]保護者 88%[85%]教職員 88%[77%]とさらに上がった。また、教員の「教育相談体制の整備」が 73%[57%]生徒も「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」72%[65%]と変化しており、次年度以降もさらに生徒の声を受け止め、主体性を育てる生徒指導を行っていく。

【学校運営】

国際文化科生徒の「国際性を養う機会が多い」はコロナ禍にも関わらず 85%、総合科学科生徒の「科学への興味を高める機会が多い」は 88%、保護者の「学校は専門高校としての深い知識・技能について学ばせている」は 89%であり、専門性の高い取組みが評価されている。

また今年度は生徒の「体育祭や文化祭は楽しく工夫されている」85%[81%]と上昇した。次年度、従来の教育活動や行事をコロナ前の水準に近づけて復活させていければ、生徒たちが本校の特長的で魅力ある活動をより多く経験できると期待している。またそういった本校の活動の魅力を積極的に発信していきたい。